

高い次元での文武両道を目指す姿勢が高い評価を受けました。

## 県内国公立大学推薦入試で巨摩高が合格者数1位に!!

- ① 3年間部活動をしっかりやっている。
- ② 欠席遅刻早退が極めて少ない。
- ③ 定期テストに1年生の段階から真面目に取り組み、5段階評定が高い。
- ④ ボランティア活動を経験している。
- ⑤ コミュニケーション能力が高い。
- ⑥ 校則違反をしていない。

### 特集 推薦入試の指導と実績



大手進学情報会社の調査によると、山梨大(医学部医学科を除く)・県立大・都留文大の推薦入試で、巨摩高校の合格者数が28名となり、県内全高校の中で1位となつたことが判明しました。

勉強も部活も一生懸命に取り組む、つまり、「高い次元での文武両道」を目指す姿勢が、県内の国公立大学で高く評価されたといえます。

長引く不況で、学費の安い国公立大学を希望する受験生は増加傾向にあります。本年度の入試もかなり厳しいものでした。3年生は、1年生の時から「進路学習」や「小論文学習」に取り組み、長い時間をかけて準備をしてきましたが、それが見事に結実したのです。

国公立大学に限らず、推薦入試合格者にはいくつか共通点があります。

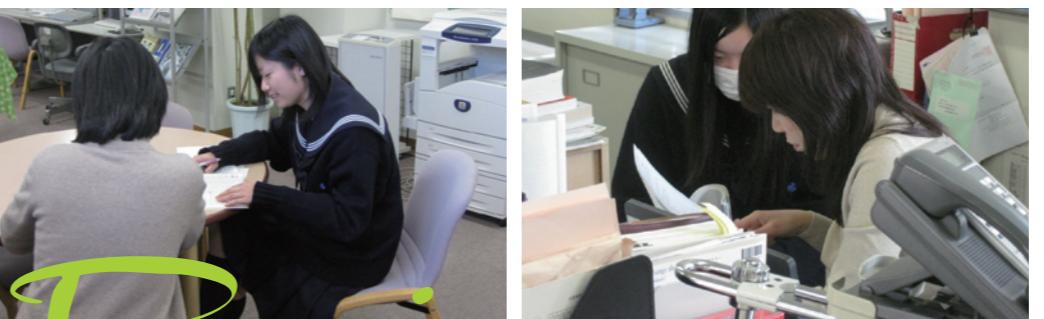
● 合格体験記  
都留文科大学 文学部  
推薦合格

**野田瀬亮** (櫛形中卒)

3年間野球部を続けながら合格の栄冠を手にできました。感謝します。

さて、国公立大学の一般推薦で大切なのは、日々の授業や家庭学習と難物の小論文です。これはとても丁寧な指導をいたしました。初めは何度書いても担当の先生からダメ出しをされ、閉口気味になりました。しかし、指導のおかげで、過去問題に共通する文脈が私の中で言葉としてまとまってきた。本番ではこれが当たりました。

また、私は鬼門の古語・古典文法について、「文法の教科書は一晩で覚えられる」「古文單語は1週間で300語」と叱咤され、何とかクリアしました。



**Passion. a mission and an action.**

『日本を科学技術立国とするために強くする』です。多くの若い人に、日本の将来、つまり自分たちの将来のために、科学技術が重要であるということを、もっと意識してもらいたいことを強調しています。そのために科学力や技術力を感じれる環境をつくることを挙げています。例えば、科学の最先端を見せたり、子どもたちが興味を持つような科学や技術のイベントを開催することを提案しています。第二点は「英語能力の向上を図ろう」です。国際的な仕事をするために、語学力は附加值ではなく、前提条件であり、使え

なければいけないツールなのです。例えば、学生にとってパソコンが使えることが常識である」と同じ感覚で、英語を使えるようになる必要がある事を強調しています。

このことを高校段階で実現する方策としてスーパー・サイエンス・ハイスクール(SSH)事業があります。現在全国で約100校近く指定を受け様々な事業企画・研究・発表が展開され、現在理数コースを抱える本校の将来目指すべき方向の一つと考えています。

3月に卒業する生徒諸君に、また巨摩高校の将来の展望に向けて、迷迷惑する世の中を打破するキーワードは、パッション、ミッション、アクションです。自分の置かれた状況の中で、熱意と使命感と行動力を持って共に成長していくことを大いに期待したい。

## 熱意と使命感と行動力

校長 山中 泉



## 「巨摩フェスタ'11」開催

2月5日(土)、南アルプス市櫛形生涯学習センターにおいて、文化部合同発表会「巨摩フェスタ'11」が開催され、各部が日頃の活動の成果を披露しました。

